

中学サッカーにおける部活動・クラブチームの選択経緯、 そのメリット・デメリットについて

久安 慧 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)
指導教員 上利 理代

キーワード：サッカー、クラブチーム、部活動

1. 緒言

学校の部活動は、特に中高生へのスポーツの普及に大きな役割を果たし、競技力向上にも重要な役割を担ってきた。しかし、現在、部活動が大きな転機を迎えていることは自明である。その背景は、少子化による部員数不足のための廃部、教員数減少や新規採用教員の減少による指導者の不足や指導時間の不足、さらには部活動指導の職務的位置づけの曖昧さによる問題、遠い目標に向けた厳しいトレーニングという競技的スポーツへの参加率の低下等様々である。その結果、子ども達がスポーツを行う上で、学外に場を求めることも日常化してきていると言われている。

そこで、本研究は部活動・クラブチームの選択経緯、そのメリット・デメリットを明らかにする。

2. 研究方法

本研究の調査対象は、中学時代サッカーをしていて、部活動または、クラブチームに所属していた大学生 50 名にアンケート調査を実施した。

3. 結果と考察

1) 主な活動内容の調査の比較図

	部活動	クラブチーム	有意差
練習頻度(週)	6.6回 ±0.57735	4.7回 ±0.901388	2.08412E-09
1回の練習時間	1.90時間 ±0.395285	2.75時間 ±0.661438	7.28E-06
指導者の練習参加頻度	3.5回 ±1.645701	4.7回 ±0.901388	0.009293697
練習試合の頻度(週)	0.6回 ±0.55	1.7回 ±0.361709	5.94121E-08
合宿、遠征の頻度(年間)	0.5回 ±0.658913	4.6回 ±1.18034	1.53961E-13
消費する金額(郵費、遠征費を含む)	2.2万円 ±1.322498	13.9万円 ±7.830443	3.44482E-07
同期の部員数	14.2人 ±3.122498	24.3人 ±8.08146	2.18944E-06

(図 1. 主な活動内容の調査の比較図)

すべての項目に有意差ありという結果が出た。部活動は、ほぼ毎日練習しているが、実戦経験が少ない。また指導者の練習不在が多いため、指導が行き届いていないと考えられる。この状

況が「楽しみ志向」と競技レベルで位置づけられている。クラブチームは、指導者が常に練習管理をしているので、練習環境が整備された状況を作り出すことができる。また、練習試合や遠征が多く、1日の試合消化数も多くなるので、外傷やバーンアウトを引き起こす要因となる。

2) 双方のメリット・デメリットの比較

クラブチームのデメリットに罰走があると挙げられていたが、どんな試合でも常に勝ち続けなくてはいけないという意識が浸透しており、その厳しい環境からメンタル面が鍛えられたというメリットが挙げられたと考える。(常勝志向)部活動は指導者(顧問)が練習に参加しないことが多く自由度の高い練習環境であることがわかった。(楽しみ志向)また、チームとしてのコンセプトがなく、目的・目標がクラブチームより薄いと考えられた。

双方に挙げられたメリットで言えることは、強いチームほど社会的マナーが身につく指導がされており、オフ・ザ・ピッチでも指導が行き届いていることが考えられる。

4. まとめ

本研究では、双方を比較して部活動所属は、サッカーを通じた仲間づくりや適度に楽しくやるというメリットが全体としての印象であった。一方、クラブチーム所属は、サッカーを通じた自己成長や人格形成などのメリットが全体としての印象だった。また、強豪部活動は、クラブチームと類似しており社会的マナーなど、学校教育の壁を超える指導も行われていることがわかった。

引用・参考文献

本田祐一郎(2017) 青少年サッカー選手における達成目標志向性が心理・行動的側面に及ぼす影響。山口大学教育学部研究論叢(第3部)66巻29~37

文部科学省(1997) 運動部活動の在り方に関する調査研究報告。(中学生・高校生のスポーツ活動に関する調査研究協力会議)